

長崎国際大学大学院
人間社会学研究科 博士後期課程
地域マネジメント専攻
2026 年度 春季入学試験

論述試験問題

注意：問題は、必須問題と選択問題に分かれています。
必須問題は、受験者全員が必ず解答しなさい、
選択問題は、2つのうちから1つを選んで解答しなさい。
なお、解答はいずれも別紙の解答用紙に記述すること。

第 1 問（必須問題）

問 1

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博：Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan）が、2025 年 4 月 13 日から 10 月 13 日の 184 日間にわたり大阪市此花区夢洲で開催された。大阪・関西万博は、世界各国からの来訪者を迎える国際的イベントであり、食を通じた文化交流や地域振興も期待された。大阪・関西地域は、多様な食文化を背景に独自の観光資源を形成してきた歴史を有し、近年は地域固有の食体験を求める旅行者を対象としたフードツーリズムの重要性が高まっている。

大阪・関西万博では、最新のフードテックやサステナブルな食の実践に加え、地域の伝統食や食産業の魅力をどのように提示できるかが注目された。

万博という巨大イベントで、食文化が観光体験にどのような価値を付与し、来訪者の動機形成や満足度向上に寄与したか、今後の地域食文化の発信・継承・ブランド化にどのように関与し得るかなどの視座から、持続可能なフードツーリズムを推進するための方策を 500 字以内で述べなさい。

問 2

近年、日本各地で道の駅は単なる休憩施設を超え、地域の文化・歴史・産業を発信する拠点として機能している。道の駅は地域食材の販売や食体験の提供、伝統工芸・祭礼・風土に関する展示、観光案内や交流イベントの開催など、多面的な取り組みを通じて地域の文化資源を可視化し、地域経済の活性化にも寄与している。また、人口減少や地域アイデンティティの希薄化といった課題に対して、住民と来訪者が交わるハブとしての役割を果たすケースも増えている。

近年の道の駅が地域文化に対して果たす役割を整理し、地域文化の継承・発信との関連性を文化観光の視点から論じなさい。また、その意義と同時に生じ得る課題を指摘し、今後の道の駅が地域文化の拠点として持続的に機能するための方策を 500 字以内で答えなさい。

第2問（選択問題）

次の【問題1】、【問題2】のうちから1つを選んで答えなさい。

【問題1】

現在、日本では、少子高齢化や人口流出の進行により、地域コミュニティの維持や産業の担い手不足が深刻な課題となっている。このような状況の中で、地域資源を活用したまちづくりが、地域の活性化を図る重要な取り組みの一つとして考えられる。

持続可能な地域づくりを進めるため、例えば下の(1)～(3)のような取り組みがある。これらの取り組みを具体的にはどのように行えばよいか。(1)～(3)のそれぞれについてのあなたの考えを、それぞれ300字以内で述べなさい。また、解答する際には、地域住民、事業者、地方自治体（県や市町村）など、複数の立場を視野に入れて考えること。

(1) 地域資源を活用した産業振興

(例) 地場製品のブランド化、地域産業と観光の連携など

(2) 若者や移住者の定住促進

(例) 雇用創出、住環境整備、地域コミュニティへの参加支援など

(3) 地域コミュニティの維持・再生

(例) 住民参加型の活動、世代間交流、防災や見守り体制の構築など

【問題2】

「ドミナントストーリー」と「オルタナティブストーリー」の語句を用いて、「ナラティブストーリー」を説明しなさい。

